

幼児教育学科

科目名: 職業選択と自己実現			担当教員 氏名: 島原 郁代、清水 朱実			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	総合科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			キャリアカウンセラーとしての実務経験を活かして、アサーティブコミュニケーションをとり、より多く対話することで、自己理解と他者理解が活発に行える授業を行う。			
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
今までの自分を振り返り、自己理解を深める中で、自分の自己実現とキャリアデザインに意識を向けていく。また、最近の就職事情について理解を深め、就職活動に必要なノウハウを身につける。					自己理解・他者理解・自己表現・コミュニケーション・自己実現・キャリアデザイン	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8	
A 知識・理解力			自己理解、他者理解ができる。			
D 問題解決力			自分の長所、短所を見つけ、目指す自分に向かって行動していくことができる。			
E 自己管理能力			自分を振り返り、キャリアデザインしていくことができる。			
H コミュニケーション力			言語・非言語両面から、伝えたい自分を表現していくことができる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 20 %		レポート: 30 %		発表: %	実技試験: %	その他: 50 %
特記事項: ・上記「その他」においては、授業中の態度、授業中の課題演習の取組姿勢状況などで評価する。 ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワーク、発表を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション・ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適宜小テスト、レポートを行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 適宜小テスト、レポートを行い、採点し返却する。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①【島原】最近の就職事情と就職活動の理解			【復習】就職活動の実践		復習60分	
②【島原】自己理解・他者理解・現代社会・キャリアデザインの理解			【復習】就職活動の実践		復習60分	
③【島原】自己分析①キャリアノート作成			【復習】キャリアノート記入		復習60分	
④【島原】自己分析②(他者からみた自分を知る)キャリアノート作成			【復習】キャリアノート記入		復習60分	
⑤【島原】自己PR、志望動機			【復習】自己PR、志望動機作成		復習60分	
⑥【島原】履歴書作成①			【復習】履歴書作成		復習120分	
⑦【島原】履歴書作成②			【復習】履歴書作成		復習120分	
⑧【島原】「自己理解と自己表現」のまとめ			【復習】自己表現の振り返り、実践		復習60分	
⑨【清水】「音読」文字色の音読テストから始める能力アップ			IT機器多様による脳の衰え→活性化/能活		90分	
⑩【清水】「話し方」ボリュームのある声を作る腹式呼吸			舌年齢の衰え→声の出し方 訓練によるボリューム調節		90分	
⑪【清水】「発声」CDを使った簡単トレーニング			かつ舌の悪さ→解消/耳を鍛える		90分	
⑫【清水】「スピーチパフォーマンス」緊張の原因を探る(姿勢・視線・口調・癖)			スピーチする能力低下→スピーチ力をつける		90分	
⑬【清水】「ロジカルスピーチ」文章の作り方 「敬語」の使い方			敬語苦手意識→社会人として最低限敬語力をつける、課題による文章作成能力をつける		90分	
⑭【清水】「面接必勝法」面接室の扉のノックから実践①			敬語苦手意識→社会人として最低限敬語力をつける、課題による文章作成能力をつける→退室まで実践し、不安を解消する		90分	
⑮【清水】「面接必勝法」面接室の扉のノックから実践②			姿勢・話し方の認識し、ノックから退室まで実践し、不安を解消する		90分	
使用テキスト: 必要に応じて資料を提供します。 就職ガイドブックを使用します。				その他参考文献など: 面接・自己PR・志望動機[完全版]坂本直文著		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 自己理解、自己表現に「これは正解」というものはありません。授業で人とのかかわりながら、課題や演習により積極的に取り組んでください。「自己表現しながら、自己理解する」のは楽しいと思える授業を一緒に作りましょう。 記号言語(日常の言葉)から身体言語(body language)まで学び、人間関係の結びつきと話の効果を確認しましょう。						